認定NPO法人 環境市民の月刊会報誌
2017年8月号 291号

みどりのニュースレター

環境市民 創設25周年

今月の一枚



環境市民設立総会　1992 年 7 月 18 日　京大会館
1990 年から、様々な環境活動に取り組んでいる人々、専門家と幾度もディスカッションを重ね設立しました。
設立総会には、会場一杯に多様な人々があつまり、初日だけで 50 人以上が会員になってくださいました。

環境市民　四半世紀を振り返って

認定 NPO 法人環境市民　代表理事　枚本育生

この 7 月に環境市民は、創設 25 周年を迎えることができました。創設は 1992 年、ちょうどリオで「地球サミット」が行なわれ、地球規模の環境問題と持続可能な開発に向けて、国際的な対応が実質的に始まった年でした。環境市民は、その 2 年前からこれまでの日本にはない環境 NGO を創ろうと様々な環境活動を行っている人達と話し合い、立ち上げたのです。「これまでの日本にはない」とは、① 個別の事案にとどまらない横断的に環境問題の解決と、持続可能な社会への提案と実行を継続的に行なうこと、② その基盤として自らの事務所と有給スタッフを有することと法人化すること（当時、NPO 法人は法的には整備されていず、社団、財団も設立要件がとても厳しい状況でした）、③ 自立した（つまり忖度しない）主張をきっちりと行いながら、自治体や事業者ともパートナーシップを組んでいくこと、④ 将来像（ビジョン）と使命（ミッション）を明確にして、計画的に活動を組み立てること、⑤ 専門性を高めるとともに誰もが参加できる NGO であることの 5 点です。これらのことを明確にして活動している環境 NGO は、当時の日本社会としてはかなり少数でした。また、今でも決して多くはない存在だと思います。

発足前後から、様々な活動に取り組みました。環境なんでも講座「野の塾」、「楽貧料理教室」、山小屋と里山活動、国内外のエコツアー、環境教育リーダー養成講座などには、多くの参加者が集まり、誰もが参加できる NGO が具現化しました。その一方で長期の計画的な活動として、発足当初から取り組んだ一つがグリーンコンシューマー活動です。これは、グリーンコンシューマーの日本初の具体化であり、多くの地域や自治体、事業者、国の政策にも影響を与えたとして環境白書で評価されています。そしてもう一つが、国内外の調査をもとに、2001 ～ 2010 年度に実施した環境首都コンテストです。環境首都コンテストは、日本の多くの市区町村行政に影響を及ぼすことができました。この二つの活動は、事業者や自治体に社会的影響力を及ぼすとともに、自らの専門性を高めることと各地の NGO/NPO を仲間にして多くのボランティアで支えられているという共通性があります。さらに前者は「エシカル通信簿」「ぐりちょ」のような持続可能な消費活動として、後者は環境首都創造事業として現在も環境市民の主要な活動となり発展しています。



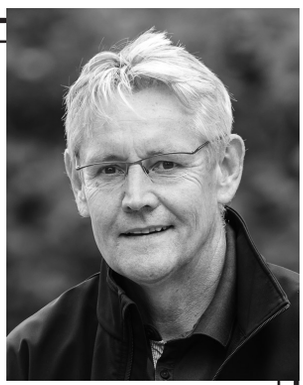
この 25 年で実施した活動は多様なものがあり、その全てに触れることはできませんが、阪急電車のエコトレイン号、叡山電車のエコモーション号、COP3 時にジャスコ近畿カンパニーと行った地球温暖化防止キャンペーン、アーバン・エコツーリズムの具体化としてのエコ修学旅行の実施は、日本の環境 NGO が実施した事業者との先進的な協働活動として高く評価されています。また京エコロジーセンターの草案から設計、建設に至る協働や各地の環境基本計画策定コーディネートなど自治体との協働も同様に高く評価されています。

さらに、環境市民の活動だけでなく、COP3 時に環境 NGO のホスト役を担った気候フォーラム（現「気候ネットワーク」）や、日本の環境 NGO の横断的なネットワーク「グリーン連合」の、立ち上げと運営にも大きな役割を担うなど、日本の環境 NGO 全体を強くする活動にも積極的に参画してきました。

このような活動を四半世紀にわたり実施できたのは、多くの会員、支援者、スタッフやネットワーク、協働のパートナーに支えられてきたからこそです。深くお礼申し上げます。今後さらに「できないと思われていること」を「できること」に変えていく活動を、環境問題の解決とともに持続可能な社会、真の民主主義社会、非暴力社会を形作っていく活動を、環境市民としてチャレンジしていきたいと思います。引き続きご支援をお願いします！

ドイツより　環境市民創設 25 周年お祝いメッセージ

ハム市は、ドイツ西部ノルトライン・ヴェストファーレン州にある人口約１８万人のまちであり、1998 年のドイツ環境首都でもあります。
ルール工業地帯の北東端に位置し、かつて炭鉱で栄えましたが廃鉱により失業と経済不振に襲われたことから、環境のまちづくりに取り組みました。
「リッペ氾濫原再生プロジェクト」では川を元の自然な状態に戻すため、石垣を取り除き川と川べりが一体となる氾濫原としての湿原を取り戻し、自然復元の取り組みも大きな成果を挙げています。ハム市及び都市計画局のデルト氏とは 98 年から交流を重ねています。



枚本さん、環境市民の会員の皆さん

環境市民設立 25 周年に際して、ハム市を代表して、また私個人としても心よりお祝い申し上げます。
枚本さん、そして熱意ある多くの会員の皆さんと 2000 年に初めてお会いした時から、17 年の時が過ぎました。この長い間に、皆さんは非常に多くの、具体的かつ幅広い内容の環境プロジェクトを企画し、実施してこられました。
2000 年の頃（環境市民は 1992 年に京都で設立されてまだわずか 8 年でした）、環境市民では自治体のための環境コンテストを日本でも実施することを活動の一つの柱においておられました。ドイツでは自治体を対象にした環境コンテストを「ドイツ環境支援」が 1992 年に始めており、環境市民はここから学んで「環境首都コンテスト」を日本でも導入しようとしていたのです。「地球規模で考え、足元から行動する」をモットーに、会員の皆さんの多大なご尽力で数年後には日本でもコンテストが実現しました。
ハム市が 1998 年にコンテストで一位を獲得し、「自然・環境保護の連邦首都」となった時のコンセプトとプロジェクトを紹介するため、私は「ドイツ環境支援」のマルクス・ツィップフ氏と共に 2 週間の講演旅行に招かれました。多くの日本の都市を枚本さん達と一緒に訪れ、日本での環境首都コンテストの実現に私もほんの少し貢献できたかと思います。この時の講演旅行、そして皆さんのハム市訪問については今もよく覚えています。枚本さん、そして環境市民の会員の皆さんの益々のご活躍と、現在進行中のプロジェクト、また今後進められる予定のプロジェクトのご成功、環境市民の更なる発展をお祈りいたします。

ハム市より
トーマス・デルト

Sehr geehrter Herr Sugimoto, sehr geehrte Mitglieder von Citizens Environmental Foundation,
zum 25-jährigen Jubiläum von Citizens Environmental Foundation (CEF) gratuliere ich Ihnen im Namen der Stadt Hamm und auch persönlich von ganzem Herzen.
Seit dem ich mit Ihnen, Herr Sugimoto, und mit vielen engagierten Mitgliedern Ihrer im Umweltbereich tätigen Nichtregierungsorganisation im Jahr 2000 zum ersten Mal zusammengekommen bin, sind bis heute bereits 17 Jahre vergangen. Eine lange Zeit, in der Ihre Organisation eine immense Vielzahl konkreter Umweltprojekte mit einer großen inhaltlichen Bandbreite initiiert und durchgeführt hat.
Um das Jahr 2000 herum – CEF steckte nach der Gründung 1992 in Kyoto mit acht Jahren noch in den Kinderschuhen – war es ein Schwerpunkt Ihrer Tätigkeiten, einen Umweltwettbewerb für die Städte in Japan ins Leben zu rufen. Ein solcher Wettbewerb war von der Deutschen Umwelthilfe für die Kommunen in Deutschland 1992 angestoßen worden und es war das Anliegen von CEF hiervon zu lernen und einen „Environmental City Contest “ auch in Japan einzuführen. Nach dem Motto “Global denken, lokal handeln “ und dank des großen Engagements der CEF-Mitglieder konnte dies bereits einige Jahre später auch Wirklichkeit werden.
Mit der Vorstellung der Konzepte und Projekte, die der Stadt Hamm 1998 den ersten Platz und damit den Titel „Bundeshauptstadt für Natur- und Umweltschutz “ bei diesem Wettbewerb eingebracht hatten, konnte ich auf Einladung von CEF bei einer intensiven, zweiwöchigen Vortragsbereisung zahlreicher japanischer Städte, gemeinsam mit Ihnen, Herr Sugimoto und vielen weiteren CEF-Mitgliedern, sowie Markus Zipf von der Deutschen Umwelthilfe ein klein wenig zu diesem Erfolg beitragen. Diese Reise und auch die Besuche hier bei uns in der Stadt Hamm sind mir bis heute in bester Erinnerung und ich wünsche Ihnen, Herr Sugimoto, den vielen weiteren Aktiven bei CEF ein gutes Gelingen und viel Erfolg bei all den aktuell laufenden und zukünftigen Projekten Ihrer Organisation.

Mit freundlichen Grüßen aus der Stadt Hamm
Thomas Doert

「買い物から社会と生活を変えよう！公開セミナー 2017 in 福島」開催しました！

7月 12 日、福島県消費生活課研修室にて、消費から持続可能な社会をつくる市民ネットワークと環境市民の主催、福島県消費者団体連絡協議会の協力、福島県と福島市の後援で「買い物から社会と生活を変えよう！公開セミナー 2017 in 福島」を開催しました。

冒頭、環境市民代表理事の枚本育生より、「持続可能な消費、エシカル消費って何？」と題した講演を行いました。深刻化する気候変動、生物多様性の危機、食糧不足と飢餓、人権や労働者の権利侵害、社会格差の問題…。そのような背景から、私たちは消費生活のあり方を見直し、経済社会システムをエシカルな方向に変える必要があります。



エシカルな買い物をしたい人が増えていることは、近年のデータで示されています。しかし、一方で企業や商品をどう選んだらいいかわからないという声もあります。消費者・市民目線で企業のエシカル度をチェックして公開する「企業のエシカル通信簿」の紹介では、福島県消費者団体連絡協議会の田崎由子さんより、消費者チームとして実際に調べてわかったことをお話いただきました。高齢者や障害者を含む、誰もが利用しやすいウェブサイト作りに積極的な企業がある一方、多くの企業では環境ラベルの取り組みが少ない、環境やエシカルに関するわかりやすい情報提供がなされていない等の課題がみられました。その対策として、消費者団体等のステークホルダーとの直接対話の機会を増やすことや従業員への消費者教育、グリーンウォッシュ、ブルーウォッシュ防止の研修が求められているといいます。

インターネットやスマホで気軽にエシカルな商品や店舗を検索できるサイトとして現在作成中の「ぐりちょ Green & Ethical Choices」では、近々の公開に向け、7項目のエシカルな基準を満たした商品を直接お店に行って調べる「ぐりちょ調査キャンペーン」を福島でもやっていただくよう呼びかけました。

その後、福島県内の団体からの事例として、いわき市で活動している NPO 法人ザ・ピープルの吉田恵美子さんをゲストに迎え、お話いただきました。①地域で循環型社会を作ろうと古着のリサイクル活動等を行なっていた時に東日本大震災と福島原発事故が起き、緊急時に行政任せだけでは手が届かないこと、②手塩にかけて育てた農産物が市場に出せなくなってしまったこと、③外からの人の助けと人々のつながりをもつコミュニティの再生が望まれていること等の課題が見えてきたといいます。「ふくしまオーガニックコットン」プロジェクトを始め、原発後に農産物が一時的な出荷停止や風評被害により食べてもらえなくなってしまった耕作放棄地で、化学肥料も農薬も遺伝子組換えも使わない伝統的なオーガニックコットンを生産し、農業と人とのつながりを再生させる活動を始めました。2万人を超えるボランティアの動員、いわきおてんと SUN 企業組合の立ち上げ、茶色のコットンでできた「ふくしま潮目」の販売など、吉田さんによるハートフルな講演は、アンケートでも高い評価を得ました。

最後に、買い物ゲームを行い、これまでの講演を元にチョコレートとTシャツをエシカルな観点も意識して選んでもらいました。みなさん、商品を選ぶ段階から非常に熱心で、議論が絶えませんでした。児童労働に対応する NGO を応援したい、説明が丁寧になされているなど価格だけではない選び方も重視されていました。また、ザ・ピープルのオーガニックコットンTシャツが欲しいという声もありました。消費者団体の方や、地元の小売企業の方、震災後の農家支援の NPO を立ち上げようとしている方など 45 人の熱心な参加者に恵まれた福島セミナーとなりました。

（環境市民　チーフコーディネーター　石崎雄一郎）



環境首都創造ネットワーク　ミニレクチャー

環境首都創造ネットワークでは、自治体と NGO、研究者が一体となって、持続可能な社会づくりに向けた活動を進めています。その一環として、ネットワーク運営会議で、会員である気候ネットワーク田浦健朗事務局長によるミニレクチャーを行いましたので、その内容を共有します。

ミニレクチャー
『パリ協定がめざす脱炭素と地域・自治体の役割』

＜パリ協定の影響と脱炭素に向けた世界の動き＞

IPCC 第 5 次評価報告書を踏まえ、工業化前からの気温上昇を 2 度未満に抑制する可能性を高めるためには、温室効果ガス（CO2 など）の累積排出量を 800GtC に抑える必要がある。このためには、今世紀後半には実質排出量ゼロとすることが求められ、これが「脱炭素」という言葉が取り上げられる所以である。パリ協定はこれを実現しようとする決して容易ではない約束であるが、トランプ米国大統領がこの協定から脱退すると表明してからもどんどん批准・締結する国が増えている。つまり、世界はこの厳しい約束「脱炭素」に向かっていく姿勢を示していると言える。

この中で、世界では様々な動きが見られる。例えば、化石燃料への投資から撤退するダイベストメント運動である。現在約 5 兆ドルのお金がダイベストメントすると表明されており、この額はどんどん増えてきている状況である。化石燃料への投資は回収できない座礁資産となる可能性が高くなっていると言える。さらには、世界銀行と IMF がカーボンプライシングを主導する動きもある。再生可能エネルギー普及の動きも加速している。例えばビジネスにおいては、再生可能エネルギー 100%をめざすと表明する大企業が増えている。これは、大企業だからこそという側面もあるが、大企業だからこそ、そうしなければ生き残れないという認識が広がっているとも言えよう。再生可能エネルギーについては、その生産コストが大きく下がっている。たとえ、石炭火力を増やそうとする動きがあっても、経済的な観点からも必然的に、再生可能エネルギーにシフトしていくこととなると考えられる。さらに、企業のみならず自治体でも、パリ協定を後押しする様々なプラットフォームやネットワークができている。このように企業や自治体が「脱炭素」社会を念頭に、パリ協定を進める先導役となっているのが現在の世界の状況である。

＜国内の地域・自治体に求められること＞

国内に目を向けると、やはり、企業や自治体、市民がイニシアティブを取っていくことが重要と考えられる。非政府アクターである、ビジネスや自治体の役割が大きいことは世界の動きやパリ協定でも謳われていることから明らかであるが、国内でも自治体は、まさに脱炭素の先導役として、果たすべき役割は大きい。例えば、日本では再生可能エネルギー 100%と言うと、「まだまだ無理だ」と考えられがちだが、これを実現していくためにも、自治体が再生可能エネルギー普及の主体になることや、エネルギー政策を担っていくことが重要である。

具体的には、昨今、各地に自治体が中心となっている新電力会社が増加しつつあるが、そのような動きを起こすこと、庁舎や所有施設に再生可能エネルギーを率先して導入すること、事業所や家庭に再生可能エネルギーを主要な電源とする電力会社を推薦する、あるいは有利となる仕組みをつくることなど、様々なことが可能である。さらに基礎自治体は、住民に一番近い立場にいるので、省エネの面からも家庭部門の CO2 削減に深く関与することができる。

なお、現在ある技術だけで 2050 年に 80% の削減が可能であるという試算結果を出している。この大幅削減の実現により、国外に流出している化石燃料の輸入費である約 20 兆円を国内に留められることになる。つまり、脱炭素の取り組みを進めることは、国内・地域を豊かにすることでもある。

このように、地域を豊かに、そして、脱炭素に沿った大きな変革を進めていくためにも自治体・地域からの取り組みが非常に重要である。

（環境首都創造 NGO 全国ネットワーク幹事　大西康史）

会員紹介　田浦健朗さん（京都市）

気候ネットワーク事務局長
市民エネルギー京都理事長



●出会いは偶然から

「環境市民との出会いは偶然だったんです。」爽やかな笑顔で話しはじめた田浦さん。1991 年に日本環境保護国際交流会（J.E.E）を訪ねた時に枚本氏と偶然出会ったのが縁の始まりだったという。環境市民の設立準備期間には、アメリカの物理学者フリッチョス・カプラ氏（タオ自然学著者）、アジアの消費者運動のリーダーであるアンワ・ファザール氏（世界消費者機構（ＩＯＣＵ）元会長）のシンポジウムをボランティアとして手伝った。その後、25 年間ずっと会員として環境市民を支えてくれている。

●アスリート

多忙な人ほど時間の使い方がうまいとこの人をみると納得する。気候ネットワーク事務局長、市民エネルギー京都理事長など、過密スケジュールのはずなのに、昨年は初トライアスロン（オリンピック距離の半分）で見事にゴール。トライアスロンに参加するには日頃の練習が欠かせないことは運動音痴の私でもわかる。どこからそんな時間を捻出しているのか、「仕事する時間ないなぁ」と笑ってとぼけてみせる。この 9 月にはオリンピックと同じ距離の倉敷国際トライアスロンに挑戦するという「アスリート（本人は否定）」でもある。

●今後の NGO の姿と環境市民への期待

田浦さんは、日本社会における NGO の存在が、例えば、トップ企業で働いていた人が NGO で経験を積む場となったり、政府に加わる NGO メンバーが現れたり、企業や政府との人の行き来が当たり前になることが必要と考えているそうだ。

そして、「単なる活動でなく、制度やパラダイムを変えていくという考え方や先駆的に他ではできないことをやってきたから、いろいろな人がかかわり、注目や評価をされた団体だと思う。」と、環境市民の 25 年を端的に表現してくれたうえで、「今、環境市民が求めてきたパラダイム転換が起こりつつある。政策と同時に地域密着の活動もできる強みで、変化をうまく捉えいい方向で活躍できる存在であってほしい。」

期待を込めた言葉で結んでくれた。

（聞き手　環境市民　副代表理事　下村委津子）

「ぐりちょ※」ばなし

※ぐりちょ：Green & Ethical Choices
間もなくサイト公開！（詳細は前号を参照）

理想のエコトイレットペーパー発見？

インターンの見上です。6 月の総会でのワークショップで発表をしたのがきっかけで、環境に配慮したトイレットペーパーとは何かということが最近気になっています。

トイレットペーパーのグリーン購入の基準をみてみると、原材料が古紙 100%、ロール幅が狭い（目安は 105mm）、シングル巻き、芯なしタイプ、白色度が過度に高くない、の 5 点が挙げられています。

しかし、1 つ問題なのが、これらの基準全てを満たす製品がなかなか見つからないことです。特に「ロール幅が狭い」がくせ者で、JIS で 114mm と決められていることもあり、この基準を満たす製品が少ないです。

ですが今回、数々のドラックストアを回り、インターネットで探すことで、ようやく理想のトイレットペーパーを見つけることができました。

それが、イトマン株式会社の、イットコ芯なしスリムロールです！！

このトイレットペーパーは、再生紙 100%、シングル巻き、芯なし、ロール幅 107mm、無漂白と、グリーン購入の条件をすべて満たしています。また、1 ロールあたり 180m（通常のトイレットペーパーの 3.5 倍）で 90 円とお財布にも優しいです、素晴らしい…。

しかし、この商品にも 1 つ残念な点があります。業務用での販売のため、60 ロール単位でしか買えないのです。60 ロールという数は、一般的な家庭ではなかなか管理が難しいのではないでしょうか。

万人に勧められる、理想のエコトイレットペーパー探しはまだまだ続きそうです…。

（環境市民　インターン　見上太郎）

8月以降の
行事案内

持続可能な社会を子どもたちへ残そう！
環境教育リーダースタートアップ講座2017

期　間：2017年9月〜11月（全6回の連続講座）
ところ：京エコロジーセンター（第1〜3回、6回）※
アクセス：京都市伏見区深草池ノ内町13　京阪藤森駅から徒歩約5分
※第4、5回は、京都市内の別の場所で開催予定
定　員：30人（事前申込制）【原則として全6回参加可能な方】
参加費：無料
募集期間 ：2017年 9月13日（水）まで

自然保全、ライフスタイル変革、地球温暖化防止、ESD、まちづくり等をテーマとした環境教育プログラムの企画運営実践スキルなどの修得ができる講座です。これまで 300 人以上のリーダーを生み出した実績のある講座です。
今回は子どもへの環境教育に焦点を当て、プログラムを構成しています。

<こんな人にオススメ>
- 環境教育、ESDなどに関心があり、活動始めたいと思っている人
- 子ども向けの環境教育に興味・関心がある人
- 学校や地域で環境教育を取り組んでいる人、これから取り組みたい人
- 小学校や幼稚園等へ出前講座を実践している方、したい方
- 地域などで色々な環境教育プログラムを始めたい人

第1回　子どもの心をつかむ環境教育の「いろは」

と　き：9 月 16 日（土）午前 10 時〜午後 5 時
ところ：京エコロジーセンター
講　師：久山喜久雄氏
（フィールドソサイエティー 代表）
枚本育生（環境市民 代表理事）

第2回　効果的な伝え方、コミュニケーションを身につける

と　き：10 月 1 日（土）午前 10 時〜午後 5 時
ところ：京エコロジーセンター
講　師：澤田雄喜氏（京エコロジーセンター）
下村委津子（環境市民 副代表理事、eco パーソナリティ）

第3回　ライフスタイルの変革から持続可能な社会と経済を考える　〜買い物ゲーム〜

と　き：10 月 14 日（土）午前 10 時〜午後 5 時
ところ：京エコロジーセンター
講　師：枚本育生（環境市民 代表理事）

第4回　自然のなかで環境の豊かさを実感する・自らの意欲を高める

と　き：10 月 28 日（土）午前 10 時〜午後 5 時
ところ：京都御苑（予定）
講　師：久山喜久雄氏
（フィールドソサイエティー 代表）

第5回　子どもはまちづくりの主人公　身近なまちを歩いてみよう！

と　き：11 月 11 日（土）午前 10 時〜午後 5 時
ところ：京都市内（屋外及び屋内）
講　師：下村委津子（環境市民 副代表理事、eco パーソナリティ）

第6回　環境教育の現場に立つ

と　き：11 月 25 日（土）午前 10 時〜午後 5 時
26 日（日）午前 10 時〜午後 4 時
ところ：京エコロジーセンター
講　師：枚本育生（環境市民 代表理事）
下村委津子（環境市民 副代表理事、eco パーソナリティ）

主催：（公財）京都市環境保全活動推進協会
（京エコロジーセンター指定管理者）
運営：NPO法人環境市民
後援：京都市教育委員会（予定）

お申込み・問合せ：京エコロジーセンター
〒612-0031京都市伏見区深草池ノ内町13
TEL：075-641-0911　　FAX：075-641-0912
Mail：　lecture_hp@miyako-eco.jp

今月のありがとう

（新規入会） 神田浩史さん、小吹岳志さん、
左賀秀機さん、平山秀昭さん

（ご寄付） 6月1日～6月30日

今月は5,500円のご寄付をいただきました。

高橋洋子さん、常住良保さん、村島安代さん、
匿名希望さん

（ニュースレターの発送） 大西康史さん、辻野隆雄さん
佐藤ふみ香さん

好評既刊
『ちずたび 京都と出会う自転車BOOK 市内版』

2010 年に刊行され人気を博した「京都自転車MAP」が、ガイドブックと共に新しくなりました。

【編著者】認定 NPO 法人環境市民
【発行所】株式会社西日本出版社
【定　価】1,300 円（税抜）
【ISBN】978-4-908443-17-6

（編集後記）

ニュースレター各ページのテーマを検討し、執筆の依頼をし、締切の督促をし、集めた原稿を編集したり修正の相談をしたり校正も行い印刷、折り込み、封入、発送。色々な工程がありますが、もう少し全ての予定を前倒しでやっていかないとな、と毎月思います。編集長、お願いしますよ。（日）

●編集部……石崎 雄一郎、大西 康史、日下部 伸行、
下司 智子、千葉 有紀子、向井 弘美（50 音順）

一緒にニュースレターを作ってくれるメンバーを募集しています！ご関心のある方は、環境市民事務局までご連絡ください。

ON AIR

環境を身近に感じる 15 分♪

「環境市民のエコまちライフ」

都心の屋上庭園



都会の真ん中で植物を育てミツバチを飼育し、子どもや高齢者が植物や昆虫とふれあう機会を作る。「中京・花とみどりの会」では堀川通に面した中京区役所の屋上を拠点に、ボランティアの方々が活動に取り組んでいます。
区役所屋上で約３万匹のハチを飼い、セイヨウミツバチに比べ蜂蜜の量も少ない一方、ダニの一種に寄生されハチを失う等苦労も。採れたハチミツを、イベント等で味わってもらうのがやり甲斐の元。
都会の真ん中で採取されたハチミツの味わいは・・・。
話し手：中京花とみどりの会　会長
西村勇さん

▼インターネットで聴けます

環境市民のエコまちライフ　検索

まずは「環境市民のエコまちライフ」で検索！

京都三条ラジオカフェ（79.7MHz）
http://radiocafe.jp/200304006/
毎週月曜日 13:00 ～（再放送は火曜 7:00 ～）

「会員になる」「寄付をする」も参加の一つです。

環境市民は、ボランティアと会員、寄付によって支えられています。「持続可能で豊かな社会づくり」のために、ぜひ応援をお願いします。

●**会員特典：** 月刊会報誌「みどりのニュースレター」をお届けいたします。行事などの参加費を割引させていただきます。環境に関する様々な情報を得たり、また質問や相談ができます。入会時には記念ポストカードを差し上げます。

●**会員種類：** 法人会員の他、個人会員（年会費 4000円、入会金 1000円）、シニア・学生会員（年会費 3000円）などの種類があります。詳しくは事務局まで。

●**入会申込：** 郵便振替振込用紙に、住所・氏名・電話番号・会員の種類・送金内容をご記入の上、ご入金ください。

●**ご寄付：** 住所・氏名・電話番号・寄付金額をご明記の上ご入金ください。環境市民への寄付は税制控除の対象となります。

お振込先： 郵便振替　口座番号　01020-7-76578　加入者名：環境市民

誰もが参加できる
環境 NGO

環境市民
Citizens Environmental Foundation

TEL 075-211-3521　FAX 075-211-3531
mail life@kankyoshimin.org
〒 604-0934 京都市中京区麩屋町通二条下る第二ふや町ビル 206
【平日午前 10:00 から午後 6:00】
http://www.kankyoshimin.org
Twitter アカウント：　@kankyoshimin
facebook　http://www.facebook.com/kankyohsimin



（発行）特定非営利活動法人 環境市民　（代表・発行人）枚本 育生

本誌の無断複写・複製・転載を禁じます。「環境市民」登録商標 第4809505号